

キタムラサキウニ

Storogylocentrotus nudus
 地方名
 のな、くろかぜ



生態

- ①寿命：14～15年程度
- ②成熟：殻径4cm以上
- ③産卵期：7～10月（水温15～20℃以上）
- ④分布：相模湾、若狭湾以北の本州と北海道沿岸に分布する。
- ⑤生態：冷水性ウニに区分され、26～30℃以上の高水温では斃死する。受精後1～2か月間の浮遊生活後に着底し、潮下帯から水深数十メートルにある岩礁や転石に広く分布する。コンブ、ワカメ、ホンダワラ類やそれらの流れ藻を餌料とする。高水温期を除き、1日に体重の5～10%を摂餌し、磯焼けの発生・持続要因となる。

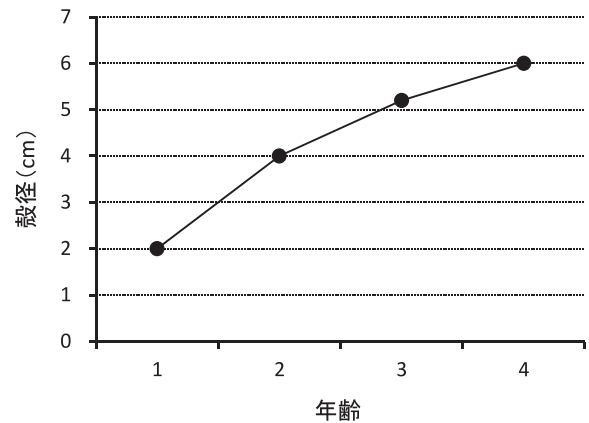


図 青森県におけるキタムラサキウニの成長

主な漁業

県内の各沿岸海域で鉾やたもなどの漁具及び潜水で採捕されるほか、下北半島沿岸ではウニ籠、津軽半島沿岸ではけたびき網で漁獲される。卵巣、精巣が食用に供されるため、成熟までの季節にあたる春から夏が漁期の中心になる。磯焼け域や深場など海藻が少ない海域では身入りが進まず、商品価値を欠くため漁獲されないこともある。

漁獲の動向と水準

漁獲量は、昭和54年に1,894トン記録した後徐々に減少し、近年は500～1,000トンの範囲で推移している。平成27年の漁獲量は前年並みの687トンであった。

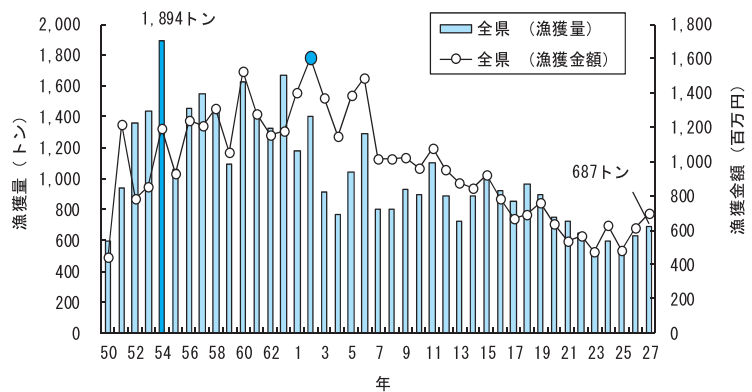


図 青森県におけるウニの漁獲量及び漁獲金額の推移
※キタムラサキウニ以外のウニも含む

資源を上手に利用するために

身入りが少ないいわゆる「空ウニ」を雑海藻場に移植することにより身入りを高めることができる。同時に、マコンブに対するウニの食害を減らすことができる。

トピックス

県では、震災により減少した三八地域のウニ資源を回復させるため、下北地域の磯焼けしたコンブ増殖場から採取したウニを、三八地域に移植放流する事業（平成26年）を実施した。

